

平成29度事業計画書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

I. 事業計画概要

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金として再出発して、本年度は6年目になります。本年度も過去の事業の経験を活かしながら、美術工芸を通じて国際間の相互理解の推進と我が国文化の発展に寄与する、という目的の達成のために事業を行います。

また、石洞美術館において、美術工芸の新たな魅力の発信を行うとともに、地域の方々と連携して、地域文化の発展にも寄与する事業を積極的に行います。

II. 事業毎の計画

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館

a. 展示計画

石洞美術館は、原則として年3回の企画展を実施しており、本年度は下記の三つの展覧会を開催します。

「石洞動物園」展

絵画、工芸は身の回りにある自然の中からモチーフを選び、造形化してきました。動物をモチーフとした作品からは、それらの作品を製作した文化的、歴史的背景や、製作者の動物たちへの眼差しを伺うことができます。

本展では、石洞美術館が所蔵する古今東西の絵画、工芸の中から動物をモチーフとした作品を選び、表現や造形の楽しさを味わってもらうとともに、それらのモチーフに込められた意味についても知って頂きたいと思います。

「中国のやきもの展」(仮称)

当館の収蔵品の多くを蒐集した佐藤千壽は、一点の高麗青磁の碗に一目惚れし、そこからやきものの蒐集を始めました。その蒐集は生涯にわたって続き、その種類は多岐に渡っています。

本展では、多岐に渡る館蔵のやきものの中から、中国のやきものを選び、初めて一堂に会します。館蔵の中国のやきものは新石器時代の彩文土器から清時代の青花磁器まで、幅広い時代のものが見られますが、官窯製の精緻な作りの作品は少なく、いかにも実用的な作品が多いことが特徴です。中国の長い歴史に育まれたやきものの流れに思いを馳せながら、官窯製の華麗で精緻なやきものとは異なる中国のやきものがあることを知って頂きたいと思えます。

「東アジアの工芸展」 (仮称)

東アジア地域においては、中国を文化の核としながら様々な工芸作品が作られ、日本の工芸もその影響を受けながら発展してきました。

本展では、館蔵の東アジアの陶磁器、漆器、ガラス製品、金属製品などの工芸作品によって、東アジアの工芸の豊かさと楽しさを味わって頂きたいと思えます。

「石洞動物園」展	4月29日(土)～8月6日(日)
「中国のやきもの展」	9月2日(土)～12月17日(日)
「東アジアの工芸展」	1月13日(土)～4月1日(日)

b. 地域との連携活動

足立区内の他の3施設と協力して、石洞美術館の展示室でコンサートを開催し、美術館の新たな魅力を発信します。

c. 広報活動

昨年度に引き続き「ぐるっとパス」に参加し、美術館・博物館に興味を持っている人が来館するきっかけにします。

d. 資料の収集

魅力有る展示を行っていくため、資料収集方針にしたがって、今年度も新たな資料の収集を行います。

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

(1) 助成事業

本年度は下記の研究に対し助成を行います。

- a. ハーバード大学東アジア言語文化学科留学生への研究助成
- b. 四角隆二 イラン鉄器時代移行期のバイメタル剣に関する製作技術の再現実験
- c. 瀧 朝子 中国・五代十国—宋時代における舍利容器及び舍利信仰に関する研究
- d. 曾和英子 中国ミャオ族の「花帯」織技法の調査と現代的な応用
- e. 北野珠子 失われていた明治皇室と美術商・林忠正からフランスへの贈り物、修復復元
- f. 太田公典 中東における青色顔料とアルカリ釉の再現と研究
- g. 大成 哲 ボヘミアンガラスの伝統を学びながら、独自の新しいガラス技術の開発とその研究
- h. 日本クラフトデザイン協会
2017 清州国際工芸ビエンナーレ グローバル・パビリオン
日本ブース「共鳴」に対する展覧会助成

(2) 表彰事業

淡水翁賞（若手金工作家奨励賞）

若手金工作家奨励のための淡水翁賞は、本年度で 34 回目を迎えます。

第 34 回淡水翁賞の募集は 9 月頃開始、12 月 25 日をもって締め切りとし、選考の上、3 月に授賞式を行います。